

樹木ラベルの点検・補修について

山本昌生・藏田光紗・井上尚子

広島市植物公園では平成15年に園内の植物ラベルについて検討するラベル委員会を立ち上げた。ラベルの取り付け方法についても検討し、およそ直径10cm以上の樹木については、ラベルをクギで打ち付けて固定する方法を主体とすることにした(写真1)。アメリカではこの方法が主体であり、クギを木に打ち付けているのはかわいそうとの感想があるが、植物への害が少ないことが知られている(1993, 野口)。この方法は安価で手軽であり、確実に取り付けることができる。しかし、時間の経過とともにクギが幹に食い込むため、成育に合わせて手入れをする必要がある。



写真1 上下2ヶ所をクギでとめたラベル

樹木ラベルの取り付け方法で、よく見るのはラベルを幹に針金でしばる方法だが、針金が幹に食い込み、木が衰弱する場合がある。また、スプリングによる取り付けは成長に合わせて広がるため、木に負担が少ないが、台風などの強風時にスプリングが伸びてしまい垂れ下がっているのを見かける。さらに木の大きさに合わせたスプリングを用意する必要があり、コストも高い。

平成15年から取り付けてきたラベルであるが、樹木が大きくなるにつれて、クギが幹に食い込んでいたり木が破損も見受けられるようになった(写真2-3)。目立つ場所や指摘された樹木については、クギをゆるめるなどの手直しを行ってきた。しかし、目が届きにくい場所や補修しにく

い場所もあり、すべての樹木について定期的な点検・補修を行っていない。そこで、ガイドボランティア有志と協力し、園内の樹木ラベルを点検・補修した。また、ラベルが必要と思われる樹木には新たにラベルを追加した。



写真2 クギを抜かなかったため折れ曲がったラベル



写真3 幹内に入り込み、抜くことができなくなったクギ(成長に支障はおきていない)

方法

予想したよりも多くのメンバーが参加したため、4人程度の班を2つ作り、異なるエリアを分担して以下の作業をそれぞれの班が行った(写真4)。①樹木にクギが食い込み、クギの余裕がほとんどない場合はクギ抜きで少し抜いて3cm程度の隙間を確保する。原則として、クギの位置は上下2カ所とする。②ラベル面の汚れをぞうきんで拭き取る。③手入れしたラベルを記録する。④折れ曲がったラベルや割れたラベルは、新しいラベルを作り交換する。⑤ラベルがない樹木など、必要と思われる樹木には随時ラベルを新設する。11月6、12、19日の3日間 13:00～15:30に行った。3日間合計で26人のガイド

ボランティアが参加した。

結果

3日間で、合計400枚のラベルを点検し、うち149枚を補修した(表・写真4)。破損し新しいラベルに交換する必要があるのは18枚、これまでラベルがなく新規に追加が必要なラベルは15枚だった(表)。



写真4 ガイドボランティアによる補修作業

古いラベルでは、拭き取ると表面のペンキが劣化して、文字が消えるタイプがあった。最近

は、パソコンで作成したデータをピータッチ(ブラザー製)により印字したテープとしているが、経年劣化は大きな問題となっていない。樹木に影響が少ないとはいえ、今回点検したラベルの中には、ラベルが破損したり、クギが食い込み引き抜くこともできない状態もあった。このようなことがないように定期的な点検・補修が必要である。宮島でも同様の方法でラベルを設置しているが、毎年環境省の宮島パークボランティアによる点検・補修作業が行われている。今回参加したガイドボランティアからは、「たくさんの樹木のラベルや樹木を見るいい機会だった」、「大勢で作業をして楽しかった」という意見をいただいたので、来年以降も協力して作業を行いたい。

参考文献

野口道夫 1993. ポストンの街とアーノルドアーボレータム. 平成5年度(第24次)海外事情調査隊アメリカ合衆国植物事情調査報告書, 財団法人日本植物園協会編: 34-35.

表 樹木ラベルの点検結果

作業日	ガイドボランティアの班*	点検したラベル数	補修したラベル数	破損したラベル数	新規に作ったラベル数
11月6日	1班	42	29	8	2
	2班	90	18	0	3
11月12日	1班	65	26	6	6
	2班	70	10	3	0
11月19日	1班	68	26	0	3
	2班	65	40	1	1
	合計	400	149	18	15

* : 1班と2班の作業は同一で、樹木の担当植栽エリアを分け、同時に作業するために2つの班を作った。